

ささ郷だより

平成27年5月26日
ささ郷 ほたる交流館が竣工しました。



朝日町 笹原町長のご挨拶

朝日町ふるさと移住交流体験施設竣工式が行われました。本事業は、北陸新幹線開業を見据え、新幹線時代の定住・半定住を推進するために、石井隆一富山県知事を本部長とする「くらしたい国、富山」推進本部会議において、平成25年8月に定住・半定住受入モデル地域育成支援事業の県内4つのモデル地区の一つに笹川地区が選定されたことにより、計画してまいりました。



このモデル事業は、空き家の利活用により移住・半定住を促進することを目的とした富山県の重要施策のひとつであり、地元笹川自治振興会の皆さんにご相談しながら、空き家古民家の紹介、築80年の古民家の改築内容、運営方法を協議し、事業を進めてきたところであります。

笹川地区は、以前から特産品の生産や生きがい創出など、地域のつながりを深める活動を住民一体となって積極的かつ創造的に取り組んでおられる地域です。少子高齢化、人口減少という厳しい環境の中でも、地域力が強く、常に新しいことにチャレンジする姿勢に感服いたしますとともに、笹川地区のご理解、ご協力があったからこそ、成し得た事業であると感じております。

本日から、笹川自治振興会がこの施設の指定管理者となり、管理運営を担っていただきます。笹川の山や川、田畑などの豊かな自然を活かした、総合的かつ多面的なふるさと交流活動を展開していくことで、交流人口が拡大し、少しでも移住される方が増えれば、地域も当然のことながら、町全体の活性化にもつながるものと期待しております。町といたしましても、今後も地区と連携し、この施設の機能が十分に果たされますよう支援してまいりたいと考えております。

施設の愛称である「ささ郷 ほたる交流館」は、ほたるの里である、笹川らしい名前を地区の方々につけていただきました。この看板の揮毫を石井知事にご依頼申し上げたところ、ご多用にもかかわらず、快くお引き受けいただきました。心より感謝申し上げます。



石井知事をお迎えする地区民



ご婦人方はルテック・ウォーク スタイルでお出迎え



石井知事 ご祝辞



鹿熊県会議員 ご祝辞



木曾義仲にちなんで巴松を記念植樹
石井知事、笹原町長
お手伝いは、笹川地区の住民で
さみさと小学校5年の山本なつきちゃんです。
鹿熊県議、小林茂和自治振興会長も加わり
記念撮影植樹



施設内の案内



近隣のコケシュさんのプルベリ畑で
知子さん、娘さんに言葉を交わす石井知事



看板除幕



参列の地区民一人ひとりと握手を交わす石井知事
石井知事の人柄が偲ばれた一幕でした。

ささ郷だより



ノルディック・ウォーク IN ささ郷

2015年5月24日

健康セミナー

小林会長の挨拶の後、朝日町役場の清水健康課長が挨拶と体組成計の除幕式、その後、山城先生の健康セミナーでした。そしてあさひ総合病院の東山院長や水島一友朝日町体育協会会長など来賓の方々に花をそえていただきました。



受付



イケメン医者&富山大学医学部生が血圧測定のボランティア笹川のばあちゃんたちいつもより血圧高かったとか(笑)



山城先生の健康セミナー



ご来賓の方々



ご協力して戴いた方々

A こて絵コース(43名)



ノルディック・ウォークは、
A こて絵コース
B 寺社コース
に分かれて笹川の名所巡り

Bコースでは、
笹川諏訪神社では、折谷隆三さんに、
正覚寺では、小塚嘉久子さんから
それぞれの歴史など解説してもらいました。
正覚寺の素晴らしい庭園では、もっとゆっくりしたいとの声も



B 寺社コース(21名)





新川地域発展賞 受賞
2015年2月7日

本賞

朝日町笹川自治振興会・かがやきプロジェクト

朝日町の東部、笹川上流の山合いの中山間地にあるのが笹川地区です。

人口減少が進み、地区の人口はとうとう300人を切りました。高齢化率はおよそ50%と住民の半数が65歳以上の高齢者です。

そんな笹川地区ですが、近年、特産品の生産に積極的に取り組んだり、10年ぶりに盆踊りを復活させるなど地域活動が活発な地域であると評判になっていて、魅力を感じた外国人家族など地区外からの移住者が増えています。(地区への転入・転居 H24年度5人→H25年度10人に増加)

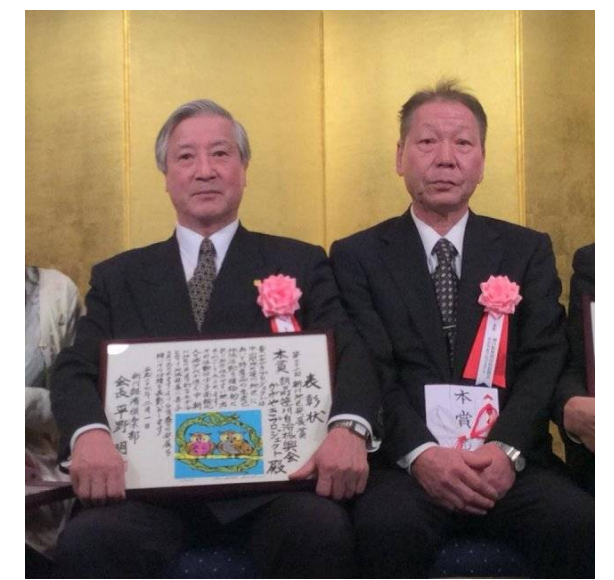
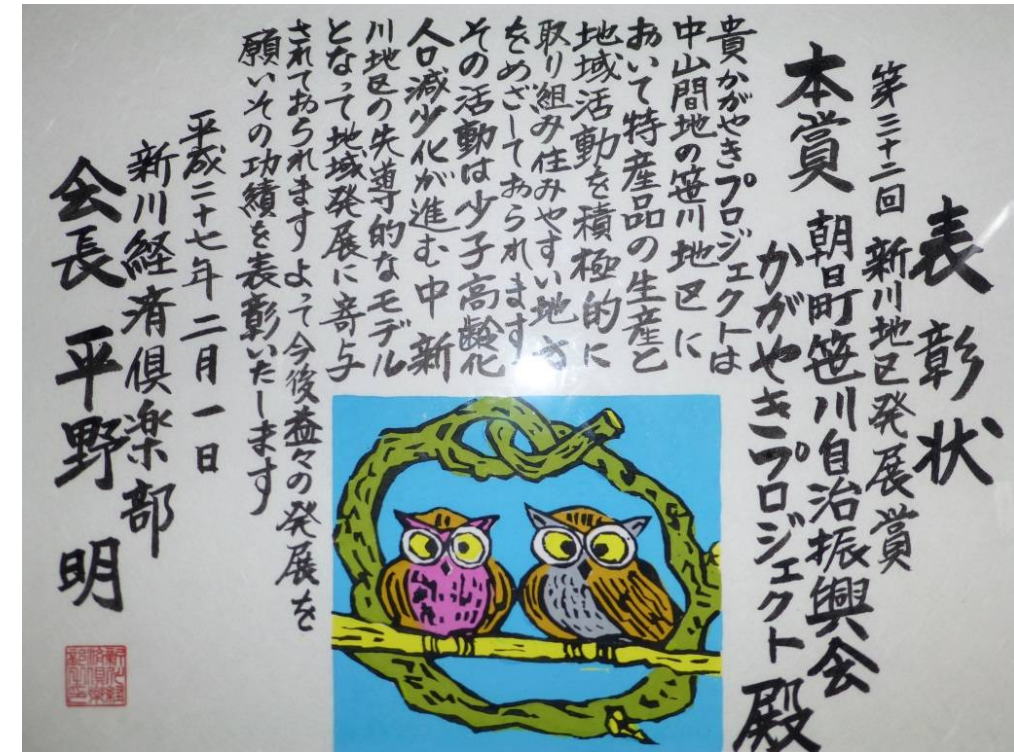
こうした笹川地区の取り組みが、県や朝日町の目にとまり、昨年度、県の「定住・半定住受入モデル地域育成支援事業」の地域に指定され、新しい体制で取り組みを始めました。それが、「かがやきプロジェクト」です。

このプロジェクトは、地区内に「笹川のブランド化推進チーム」や「特産品の充実推進チーム」「交流・体験施設推進チーム」など8つのチームを作り、地元の人がリーダー、サブリーダーとなって地域の活性化に取り組むものです。

住民たちは、ワサビや炭など特産品のブランド化に取り組む一方、鳥獣被害を受けにくい「実バラ」の栽培を始めました。また町が古民家を改修して来春に整備する交流体験施設を使って、定住・半定住につながる宿泊体験事業を行うために、石川県能都町など先進地域の視察を積極的に行っています。

笹川地区の人たちは、少子高齢化、人口減少という厳しい環境をものともせず、住民一人一人が笹川の将来を考えて自分のできることから行動しています。

その姿は、東京一極集中を是正し、多様性を持った「住みやすい地方の復権」をめざす、国の「地方創生」の取り組みに重なるとともに、同じように少子高齢化、人口減少に悩む新川の各地域にとっても先導的なモデルとなることから、新川地域発展賞の本賞に推薦するものです。



ささ郷だより

新川地域発展賞 受章記念パーティ 2015年2月7日



小林 自治振興会会長 挨拶



水野 町議会議員 乾杯の発声



宮腰 衆議院議員 挨拶



鹿熊 県会議員 挨拶



笹原 朝日町町長 挨拶



長井 総務部長 万歳の発声





今日の笹川

読売新聞、北日本新聞に掲載されました笹川の記事です。

北日本

朝日町笹川地区は小高い山に囲まれ、人口が300人に満たない集落だ。高齢化が進む一方で、近年は特産品の開発や盆踊りの復活などに取り組み、海外からの移住者もいる。地域おこしの活動が、過疎に悩む自治体関係者らの注目を集めるこの山里を訪ねた。

(朝日入道支局長 浜松雄樹)

せせらぎの山里

朝日町笹川から

<1>

朝日町中心部から車で約10分。国道8号横尾西交差点を山側へ曲がり、トンネルを抜けると、四方を山に囲まれた笹川地区に着く。2級河川の笹川が流れ、川沿い走る県道の脇に古い民家が立ち並ぶ。

50年前の笹川地区には住民が千人余りいたが、働き口や生活の利便性を求めて住民は

高齢化

退職後の世代が奮起

地区を離れた。過去10年でも100人が減少し、現在は117世帯281人が暮らす。高齢化率(65歳以上の高齢者の割合)は47%を超え、町内全地区の中で最も高い。

「将来に危機感がある。笹川自治振興会長の小林茂和さん(67)は話す。現在は消防団員の確保は困難で、今後は神社の維持管理や草刈りなど行事の継続に不安があるという。ただ、小林さんの口調に悲壮感はない。2009年に復

活させた盆踊りは地区外にも知られる人気行事とあり、特産品のブランド化にも取り組む。県の定住促進のモデル地区に選ばれ、昨年住民らでプロジェクトチーム「かがやき」を立ち上げた。

活動の中心となっているのは、「10年ほのうちに会社などを定年退職し、地域に関わるようになった世代だ。一残っていたメンバーに火が付いた」と小林さんは誇りが付いた。小林さんは誇りが付いた。「元気がない所に人は集まらないでしょ」

活させた盆踊りは地区外にも知られる人気行事とあり、特産品のブランド化にも取り組む。県の定住促進のモデル地区に選ばれ、昨年住民らでプロジェクトチーム「かがやき」を立ち上げた。

活動の中心となっているのは、「10年ほのうちに会社などを定年退職し、地域に関わるようになった世代だ。一残っていたメンバーに火が付いた」と小林さんは誇りが付いた。小林さんは誇りが付いた。「元気がない所に人は集まらないでしょ」




小高い山に囲まれた笹川地区。地域おこしの取り組みが注目を集めている

北日本

ブランド化で地域の絆

朝日町笹川から

<3>

初夏にホテルが乱舞する光景は、笹川地区の自慢の光景だ。笹川自治振興会では2年前から、コマヤワサビ、ミョウガ、炭などの特産品に「ささ郷」のブランド名を冠して販売している。清流が残る自然豊かな地が生み出す「笹川ブランド」を売り出すことで、さまざまな取り組みが続いている。

その一環が、ホテルをモチーフにしたキャラクター「ささ坊」。地区に事務所が

特産

ある「入江美研」(同町殿町)の入江修三さん(68)、長男で元アニメーターの大助さん(37)がデザインし、名前は住民から公募して決めた。特産品のチカラの壁にあるホテル農園は、実

市場での人気は高く、出荷量を増やしてほしいとの要望もあ

る。しかし、グループのメンバーは70歳前後の男女5人。限られた人数では現在の栽培規模が限度だが、深松さんは「量の良い実バラを作りたい」と意気込む。

「何より、お年寄りが作業のために家を出て、仲間たちと世間話をする場があることに意味がある」と深松さんは言う。笹川ブランドの挑戦は、地域の絆を強める役目も果たしている。

昨年10月に実バラを収穫する深松さん






北日本

せせらぎの山里

朝日町笹川から

<2>

笹川地区の盆踊りは2009年に復活し、今や地区を代表する行事となっている。

復活のきっかけは、その前年に都内で開かれた東京笹川会の総会だった。東京に住む出身者の会員に加え、笹川地区の住民も数人参加。総会後の懇親会で自然と思いついた話に花が咲き、かつて行われていた盆踊りの話題になった。

地区の盆踊りは、正覚寺と諏訪神社で行われていた。地区外からも多くの人が訪れていたが、盆踊り以外にも娯楽が増え、若い踊り手が減り、1009年を最後に途絶えていた。

懇親会で「帰省しても寂しいね」と言われ、前笹川自治振興会長の竹内康博さん(69)は盆踊りを復活させようと考えた。一歩踏み込んで、自分を含め、みんなで楽しむものにしてほしい。翌年に自治振興会に実行委員会をつくり、10年ぶりに盆踊りを復活させた。

盆踊り

出身者の声受け復活

会場は諏訪神社。平安末期の武将、木曾義仲の命で建てられたとされる。樹齢400年を超えるスギの木々に囲まれた境内にやぐらが組まれ、音頭取りの声がかかる。浴衣や法被を着た住民たちがやぐらを三三重三に取って踊り、その周りにも多くの見物客がいる。

竹内さんはまだ捨てた様子を見ない。笹川はまたまだ捨てたものじゃない。先人からの地域のつながりが残っていることを感じたと振り返る。当初は1年だけを楽しましにしている。

けのつもりだったが、予想以上の反響が大きかったため、翌年から継続。昨年で6回を数え、地区外のファンも増えてきた。

10年前から東京笹川会と合同で旅行を実施し、交流を深めている笹川友愛会(老人会)の会長、折谷武さん(80)は「出身者の古里への愛着が盆踊り復活につながった。北陸新幹線が開業すれば、もっと来てもらいたい」と言う。ことしも故郷を離れた人たちが再会できることを楽しみにしている。




昨年8月に行われた盆踊り。大勢の住民や出身者らが集まる

北日本

せせらぎの山里

朝日町笹川から

<4>

11年3月の東日本大震災に勝田さんは大きな衝撃を受け「家族やふるさとを大事にしない」と考えをもちた。翌年の夏、笹川地区で盆踊りをした時、ホワイティングさんが「この人ホワイティングさん」「この人ホワイティングさん」とつぶやいた。子どもたちの安全や将来を考えた。一家は笹川地区に移住した。

「欧州で暮らした20年間に感じられなかった人とのつながりがある」と勝田さん。「笹川にきて正解だった」と笑顔になった。

移住

築80年の古民家を改装した家に子どもたちの明るい声が響く。スイスで暮らしていた勝田さん(46)一家が、朝日町笹川地区にある父親の実家そばに引っ越してきたのは、2013年8月のことだ。

滑川市出身の勝田さんは子どものころ、週末や夏休みなどに笹川地区の祖父の家に来て、農作業を手伝っていた。冬は地区内の山にある三峰スキー場で滑りを楽しんだ。

大学卒業後、京都市役所勤務を経てスキー留学などで欧州で生活。スイス銀行に勤めていたホワイティング・クリストファーさん(63)と結婚し、長女のケリーさん(15)、長男のケイン君(13)、次男の春君(11)、三男の未来君(7)が生まれた。

スイスの山あいの村で暮らしていたが、移民が増え、学校では教師は足りず、教室はプレハブだった。治安が悪化し、近所の家が窃盗団の被害に遭うなど物騒な事件を見聞きするよう

文化祭・演芸祭

ふれあい運動会

移住者との懇談会



スイスから笹川地区に移住した、左からケリーさん、春君、ホワイティングさん、勝田さん、未来君、ケイン君



ささ郷だより

北 日 本

せせらぎの山里

朝日町笹川から

山々に囲まれた自然豊かな環境。地区が一つの家族のような人の絆。町中心部まで車で約10分の立地。その良さが見直され、新たに暮らし始める人も見られる朝日町笹川地区で近年、本格的に定住を促進しようという動きが出てきた。

北陸新幹線開業で首都圏からの移動時間が縮まることを受け、県は2013年、定住、半定住者の受け入れに意欲のある地域として、笹川をモデル地区の一つに選定した。住民たちも昨年1月、住居情報の提供や就労支援などの環境を整えようと、プロジェクトチーム「かがやき」を発足させた。

チームの実行委員長で笹川自治振興会長の小林茂和さん(67)は、子育て世代の定住促進の鍵として安全、安心の重要性を挙げて、「都会の安全を守るには警備会社かもしれないが、笹川は住民のコミュニケーションで守る。人口3000人足らずの集落では、見知らぬ人や車が来

定住促進

と住民がすぐに気づき、声掛けをするのが防犯につながっているという。

高齢化や人口減少に悩む地区にとって、移住者の増加は喜ばしい。一方で、田舎暮らしに憧れても、移住者が現実の生活になじめるかは分からないという課題がある。

そうしたマッチングの問題に対応しようと、町が地区内の空き民家を改修して春オリーブさせるのが「ふるさと体験・農村体験施設」。移住を考える人が宿泊し、住民の人柄や自然文化に触れることができる施設で、自治振興会が指定管理

町となる予定だ。町にとっても人口減対策は最大の課題。事業を担当する町企画政策室の小杉藤博室長は「笹川地区の人たちが地域おこしに本気になり、行政との歯車がかみ合い始めた。『元氣印』の地区として他の地区に波及してほしい」と期待を込める。

小林さんは「施設でじっくりと地区を見てもらい、良さも悪さも分かってほしい」と話す。さまざまな取り組みが実を結び、いずれは子どもたちの声がかたまる山里に。小林さんをはじめ、住民たちの願いが

改修工事が進められている「ふるさと体験・農村体験施設」

猿投台中学校の農村体験



地域ワ

朝日の住み良さ知って

移住交流体験ツアーが始まる

朝日町の住み良さを都市圏の人々にアピールしようと、あさひふるさと体験推進協議会(加藤好進会長)の移住交流体験ツアーが1日、町内で始まった。東京などから田舎暮らしを考えている人々が参加し、先に移り住んだ人々から町の魅力を聞いた。

北陸新幹線の開業による流入人口が拡大し、地方に移住文化を知ってもらうと企画した。東京、埼玉、愛知の3都県から家族4人が訪れた。笹川地区では、平安末期の武将、木曾義仲ゆかりがあるとされる諏訪神社を訪問した。住民らから歴史について説明を受けた後、周辺を歩き、山に囲まれた川沿いの景色を眺めた。

一行は、昨年に同地区に移住したチエコ出身のコケシユウ、グランドさん宅に移動し、ほかの移住者たちも交えて歓談した。参加者から田舎を備えることはできるのか、「小学校までの通学手段はどうしているか」などの質問が出た。

参加者は同町宮崎の料理旅館に宿泊。泊りはヒスイ海岸でヒスイ探しをするほか、特産のバター茶作りにも取り組む。

東京・埼玉・愛知から3家族

移住者の増加は喜ばしい。一方で、田舎暮らしに憧れても、移住者が現実の生活になじめるかは分からないという課題がある。

笹川地区散策



地区の魅力 DVDに

朝日町の笹川自治振興会(小林茂和会長)は、笹川地区をPRするDVD「住んでみたい里 笹川」を作成した。伝統行事や特産品、歴史などを紹介して魅力を伝え、移住を呼び掛ける。

朝日・笹川自治振興会

ふるさとの良さを映像で伝え、地区に移り住む人を増やそうと企画。約15分間の映像を収録した。小高い山に囲まれて清流が流れる地区の自然環境や、実バラミヨウガ、ワサビといった特産品、獅子舞や盆踊りなどの行事を紹介している。移住体験ツアーなどの機会に使い、地区の魅力を分かりやすく伝える。小林会長や長井昌弘総務部長は「住民が楽しく、仲良くしてある地区の雰囲気伝えたい」と話している。

朝日町笹川地区の「笹川秋祭り」は笹川諏訪神社境内で行われ、多くの住民が盆踊りなどを楽しんだ。写真、北日本新聞社後援。

境内には地区内外から大勢の人が詰め掛けた。獅子舞が奉納された。

2009年に復活した盆踊りがこしも行われ、浴衣や法被を着た住民らがやぐらの周りに輪をつくって踊った。



神向橋に生徒のイラスト

朝日・笹川 泊高校美術部デザイン

朝日町笹川の神向橋の橋桁に泊高校美術部の生徒がデザインしたイラストが設置され、除幕式が31日、現地で行われた。笹川地区の特徴であるホテルや桜が描かれている。

イラストは塩化ビニールシート製で高さ0.8m、幅10m。

昨年9月からことし1月まで行われた同橋の補強工事に合わせ、笹川自治振興会(小林茂和会長)が町の補助金を受けて設置した。

式では小林会長が「新幹線時代にふさわしいものを高校生にプレゼントしてもらった」とあいさつし、美術部の西村早織さんに感謝状を贈った。

坂口町建設課長と鹿熊正一県議、水島一友町議会議長が祝辞を述べた。

泊高校の高見祥子校長が「高校生の活気が地域の活気につながればうれしい」と話した。



ささ郷だより

ポール手に全身運動 ノルディックウォーク



日課のノルディックウォークを楽しむお年寄り(29日、朝日町笹川で)

負担少なく健康維持 観光客向けに講座も

2本のポールを両手に持って歩くスポーツ「ノルディックウォーク」が、県内で広がっている。歩行中の足腰への負担を和らげながら、効率よくカロリーを消費できるため、高齢者などの健康維持のほか、観光に活用する動きも出てくる。

朝日町の山間部にある笹川地区、夕方になると、集と砂利道の約2キロを40分ほど歩く。朝日町の山間部にある笹川地区、夕方になると、集と砂利道の約2キロを40分ほど歩く。



朝日町の山間部にある笹川地区、夕方になると、集と砂利道の約2キロを40分ほど歩く。朝日町の山間部にある笹川地区、夕方になると、集と砂利道の約2キロを40分ほど歩く。

朝日町の山間部にある笹川地区、夕方になると、集と砂利道の約2キロを40分ほど歩く。朝日町の山間部にある笹川地区、夕方になると、集と砂利道の約2キロを40分ほど歩く。

朝日町の山間部にある笹川地区、夕方になると、集と砂利道の約2キロを40分ほど歩く。朝日町の山間部にある笹川地区、夕方になると、集と砂利道の約2キロを40分ほど歩く。

朝日町の山間部にある笹川地区、夕方になると、集と砂利道の約2キロを40分ほど歩く。朝日町の山間部にある笹川地区、夕方になると、集と砂利道の約2キロを40分ほど歩く。

空き家入居 住民が仲介

朝日町 世話役「任命定住を支援」

増加する空き家を地域活性化や移住・定住の促進に活用しようと、空き家所有者と入居希望者を仲介する「空き家コンシェルジュ」に、町内3地区の自治会幹部3人を任命した。地域の事情に詳しい住民が世話役となることで、入居希望者の要望に添った空き家を紹介し、地域に溶け込めるよう支援することで定着を図る。笹原町長は「空き家は地域活性化の鍵」と意気込んでいる。



朝日町 世話役「任命定住を支援」

増加する空き家を地域活性化や移住・定住の促進に活用しようと、空き家所有者と入居希望者を仲介する「空き家コンシェルジュ」に、町内3地区の自治会幹部3人を任命した。地域の事情に詳しい住民が世話役となることで、入居希望者の要望に添った空き家を紹介し、地域に溶け込めるよう支援することで定着を図る。笹原町長は「空き家は地域活性化の鍵」と意気込んでいる。



朝日町 世話役「任命定住を支援」

増加する空き家を地域活性化や移住・定住の促進に活用しようと、空き家所有者と入居希望者を仲介する「空き家コンシェルジュ」に、町内3地区の自治会幹部3人を任命した。地域の事情に詳しい住民が世話役となることで、入居希望者の要望に添った空き家を紹介し、地域に溶け込めるよう支援することで定着を図る。笹原町長は「空き家は地域活性化の鍵」と意気込んでいる。

朝日町 世話役「任命定住を支援」

増加する空き家を地域活性化や移住・定住の促進に活用しようと、空き家所有者と入居希望者を仲介する「空き家コンシェルジュ」に、町内3地区の自治会幹部3人を任命した。地域の事情に詳しい住民が世話役となることで、入居希望者の要望に添った空き家を紹介し、地域に溶け込めるよう支援することで定着を図る。笹原町長は「空き家は地域活性化の鍵」と意気込んでいる。

朝日町 世話役「任命定住を支援」

増加する空き家を地域活性化や移住・定住の促進に活用しようと、空き家所有者と入居希望者を仲介する「空き家コンシェルジュ」に、町内3地区の自治会幹部3人を任命した。地域の事情に詳しい住民が世話役となることで、入居希望者の要望に添った空き家を紹介し、地域に溶け込めるよう支援することで定着を図る。笹原町長は「空き家は地域活性化の鍵」と意気込んでいる。

朝日町 世話役「任命定住を支援」

増加する空き家を地域活性化や移住・定住の促進に活用しようと、空き家所有者と入居希望者を仲介する「空き家コンシェルジュ」に、町内3地区の自治会幹部3人を任命した。地域の事情に詳しい住民が世話役となることで、入居希望者の要望に添った空き家を紹介し、地域に溶け込めるよう支援することで定着を図る。笹原町長は「空き家は地域活性化の鍵」と意気込んでいる。

朝日町 世話役「任命定住を支援」

増加する空き家を地域活性化や移住・定住の促進に活用しようと、空き家所有者と入居希望者を仲介する「空き家コンシェルジュ」に、町内3地区の自治会幹部3人を任命した。地域の事情に詳しい住民が世話役となることで、入居希望者の要望に添った空き家を紹介し、地域に溶け込めるよう支援することで定着を図る。笹原町長は「空き家は地域活性化の鍵」と意気込んでいる。

編集後記

約1年ぶりの発行になります。その間に、ふる里、笹川では、本号で掲載したごとく数々の活動が行われ活性化が進んでいることが覗われます。これは、行政関係各位の応援と、地区の皆さまの努力によるモノと敬意を表する次第です。また、本誌作成にあたり、朝日町役場、笹川自治振興会および深松隆さん等から沢山の資料提供を戴きましたことに深く御礼申し上げます。

さて、今回は地方再生について少し書いてみました。日本では、地方消滅と警鐘を鳴らす方もおいでです。

【産業構造の変化によるGDPの低下】

1970年初期に為替変動相場制へと移行し、長い目でみると、一貫して円高ドル安が進行し、さらに、円高が進むスピードが速すぎて、国内だけでは対応できず、工場の海外移転などもあって、成長率の低下を招きました。

産業構造の変化による雇用の受け皿の喪失 長期間に渡る経済の低迷、大企業の国内工場閉鎖・縮小、技術革新、グローバル化等の影響を受けて、これまで雇用の受け皿となってきた製造業、卸売業、小売業などの就業者数は大きく減少しました。

失業問題の背景には、こうした産業構造の変化によって雇用のパイが縮小していることがあります。今言われている格差社会を作ってしまった原因もここにありませぬ。

【少子化】

日本の少子化問題は、第二次ベビーブームの終わった1970年の半ばから続き、未だ効果的な対策を打てずにいます。では、この少子化問題の原因とはどこにあるのでしょうか？

高度成長期の頃の出生率は3を超えていました。しかし、2005年には、この出生率が1.26にまで落ち込みました。2012年には1.41まで回復していますが、人口が維持できる出生率は2.08なので日本の人口は減っていく傾向にあるということですね。

ちなみに、現在の日本の人口、およそ1億2000万人ですが2055年には9000万人を下る可能性があるといわれています。このように出生率が減少していったのにはいくつかの原因があります。

- ①働く女性が増えたことによる晩婚化 仕事をしながら子育てをするというには現在十分な環境が整っているとはいえない状態ですね。そのような状況下で女性の晩婚化が進み最近のデータでは、初婚の平均年齢は夫30.8歳。妻29.2歳。初産の平均年齢は30.3歳と過去最高を更新し続けています。
- ②核家族化による少子化 現在では核家族化、つまりおじいちゃん、おばあちゃんと離れて暮らす家庭が増えています。すると、3人、4人の子供を育てることが難しくなってくるのですね。

- ③子育てに対する金銭的負担増 最近のデータでは、幼稚園から大学までの教育費は約1400万円～2000万円ほどかかるといわれます。単純計算でふたりいれば、その倍ですから子育てにかかる経済的負担が大きすぎますね。
- ④価値観の変化 結婚をして子供を持つということを夢描いている人も多い一方、自由や気軽さを望む傾向の強い人も増えてきています。人それぞれの考え方なので否定はできませんが、少子化問題の観点からのみ見れば、これも少子化の一要因といえます。

【高齢化】

高齢者人口の上昇(平均寿命が延びたことはよいことですね。)とともに社会保障費用も上昇していくという予測になります。

この「上昇予測」を抑えるには？ 介護予防と健康寿命を伸ばすことが必要！とされています。

- ☆要介護者の数はきつと変えられる
- ☆認知症患者の数はきつと変えられる
- ☆社会保障の破綻はきつと食い止められる
- ☆元気なシニアの活躍の場は確実にもっと増やせる。

政府は地方再生と言う政策を掲げています。

石破大臣は、... あるものを探さなければ地方は創生しないということです。どこで何をやるべきかということは、全部の市町村で平成27年度中というのは、遅くとも28年の3月までにという事ですが。我が町の産業をどうする、我が町の人口をどうする、我が町の財政をどうするということをそれぞれの地方で総合戦略というものを作ってもらい、それに相応し国はそういうことに対して財政的な支援、人的な支援、情動的な支援等を目一杯のことをやります。早ければ、早いところは2年か3年でそうなるでしょう。ならないところはいつまで経ってもならないでしょう。(BS日テレ 深層NEWSより)

この話を聞いたとき、アメリカ合衆国の第35代大統領 ジョンFケネディのニューフロンティア政策の有名な一節が思い浮びました。 Ask not what your country can do for you. ask what you can do for your country. ...

国があなたに何が出来るかを聞いたもうな。あなたが国に何が出来るかを聞いたまえ。

さらに、ダーウィンの種の起源より 最も強い物がいきのこるのではない、最も賢い者が生き延びる訳でもない、唯一生き残るのは、変化できる者である。

地方再生は、これらの言葉に当てはめると、自から何が出来るかを考え、変革を恐れずに着地点を明確にして行動することなのではないかと。

具体的な事例は誌面の都合上書けませんが、機会があれば語り合いたいですね。



ささ郷だより

笹川 2000年のロマン

【苗字からの考察】

長井 寿 東京都荒川区

「同姓同名探しと名前ランキング」

(<http://namaeranking.com/>)では、「同姓同名の人数検索と全国に多い姓名ランキングを収録。」

名字ランキングで名前の由来を見つけよう。先祖から受け継ぐ苗字が全国にどう分布しているかが分かる！と魅力的な誘いがあり、その誘いに乗ってみることにしました。

(本Webデータを使うと、各苗字の件数を、全国、県、市町村毎に調査することができます。それぞれ苗字の朝日町での件数、全国での件数など)

【データベース】

全国の電話登録世帯数	19,661,494件
朝日町の電話登録世帯数	4,461件
朝日町の登録苗字件数は	676種類

朝日町・苗字の局在係数10傑(図1)

全国平均の何倍在住戸数があるかを示す係数で、0=1倍, 1=10倍, 2=100倍, 3=1000倍

1000倍となると、これはもうその町にほぼ集中し当地がルーツと言うことになります。(折谷)
それに準ずる苗字は、当然、局在係数が高くなると思われます。(水島、佐渡)逆に、局在係数が小さく0とかそれ以下では、ルーツは当地以外となるでしょう。その中間にあるものは、ルーツではないが当地で栄えたもの、全国で数か所に偏在するものなどと考えることができます。

朝日町・苗字10傑の偏在地域

戸数は最初は数戸だったでしょうが、一定期間の間に同じ姓の家が殖えていく割合を考えてみます。家が増殖するためには、同じ土地でそれだけ家族を増やす必要がある業態にその一族があることが背景にないといけません。それは、水田耕作など人手が多ければ多いほど有利なものが考えられます。それに対して、縄文時代の狩猟採集生活様式では、弥生時代以降の水田耕作生活様式よりも増殖する必要性は低いと思われれます。

さらに付け加えれば、その業態を拡大できる余地が当地にないといけません。例えば、なんらかの全国的な商品の生産(手工業品など)の原料がふんだんに入手できること、十分な水源と土地があり水田を拡大できることなどの立地条件に恵まれていることが必要です。

また、増殖は定住期間に比例することになりますので、件数が多いということは当地での定住期間が長いということを示します。そうすると縦軸はある程度、定住期間の長さ、もしくは当地に到来した時期を反映することとなります。

さらに、苗字の偏在地域があります。朝日町10傑の偏在地を図2に大雑把に描いてみました。まずは、図2を良く眺めて下さい。

図1と図2を総合的に分析すると朝日町10傑の系統の特徴が浮かび上がります。

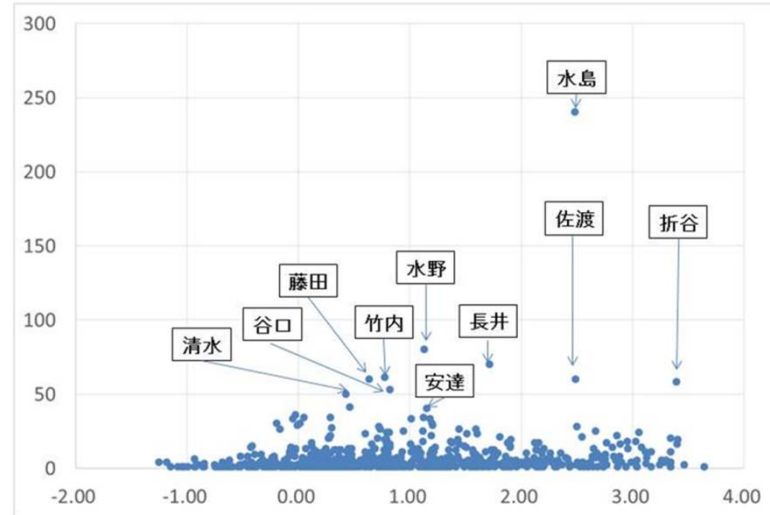


図1 朝日町の各苗字の横軸:局在係数、縦軸:登録件数 (10傑のみ苗字を記載)

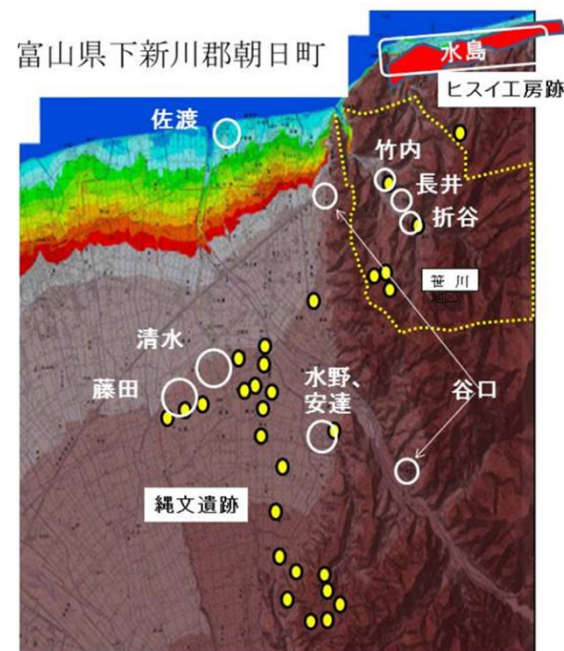


図2 朝日町苗字10傑の偏在地域

①水島

図1で最も存在感の高い「水島」の分布は、図2のとおり縄文時代以降の「ヒスイ工房」と全く重なっています。玉造遺跡の詳細な分析の結果(後日、詳細を紹介予定)では、この地域の玉造系統は、サメ漁が得意な海洋族で、漁具としての網、糸の加工、サメ歯の装飾品作り、ヒスイ、滑石等玉造などを相当大規模にやっていたことが明らかになっています。また、おそらく舟を利用した運搬業、商業にも長けていたのではないかと考えられます。

「笹川」と砂州(沖ノ島という岩場まで陸地が繋がっていたと伝わります)が形成していた自然の入り江は、穏やかでかつ守りやすい良港として栄えていたと想像されます。砂州は、長い年月の強い海岸流の影響を受けて、いつの間にか消滅したようです。

明治期でも漁業が中心で半漁半農だったようで、その中心の系統が「水島」ということになると思います。ところが、「水島」系統は、同じような業態が発展した新潟県側に行くとピタッと分布が絶え、近隣では当地にのみ局在しています。未検討ですが、新潟県側ではほぼ共通の業態の別の苗字の系統が栄えていたことになるはずはです。

そうすると「水島」系統が祀った祭神は何かという興味がわきますが、④笹川三神社考で既にお書きのように、以上の話と符合する祭神が思いつきません。長い年月の間でいくつも主たる祭神が変遷していったとも考えられます。一応、もっともらしい話は「往古は沖の島に社があった。伝承では、大昔、祭神のタケミカズチの神が、沖にかすむ能登を巡りはるる海を渡って宮崎の岬に着き辺地を鎮め、東漸の祈りを捧げた沖の島に社があった。これが海の侵食によって現在地に移されたものと言われる。」で、大和政権系の神となりますが、大きな違和感が残ります。いったん、出雲政権系の神を祀っていた時代があったのではないかと考えています。

すなわち、山地は十二社系の神が、海岸が出雲系の神が支配していた地に、大和系の神が支配を拡大してきて、最後には朝廷系勢力が支配に及ぶ...という通例の神話譚があつてしかるべきと思われるのですが、その中で海岸の出雲系神が希薄だということです。おそらく沼河姫と大国主(もしくは事代主)の両方を祀って時代の証拠が掴めると話は落ち着きます。

「水島」は「境」、「宮崎」という集落に共通して中心の系統です。「境」は越中、越後の国境の制定による地名発祥、「宮崎」は上記の古潭と関連の深い、いずれも後日発祥となりますので、もっと違ったひとつの地名で呼んでいたかもしれません。どうも、国境制定後は朝日町全体が漠然と「佐味」と呼ばれていたようです。呼んでいたのは朝廷側ということになりますので、地元で人々がなんて呼んでいたのかは不明です。「浜」程度に言っていたのではないかと思います。糸魚川から西側で初めて浜と呼べる風景が広がる土地となりますので。

とりあえずは、元来の祭神や地名などはさらに検討することとして、「水島」系統を朝日町に縄文時代には到来しており、そして歴史的に最も栄えた系統とします。

②佐渡

「佐渡」系統は、局在率は「水島」と同等ですが、件数が少ないこととなります。偏在地は、やはり海岸沿いで、明治期には漁業を主たる生業としていましたので、やはり「水島」同様、到来した時代は古い「水島」のような手工業の展開はせず、むしろ漁業に専念したのではないかと考えられます。「佐渡」系統は、富山湾では沿岸地域に点在しています。当地では、小川(朝日町でも最も大きな河川)の河口に船着き場を持ち、「赤川」という集落を形成した中心の系統だと思われる。「赤川」には五社明神社がありますが、特筆すべき祭神については未調査です。

③竹内、長井、折谷

この三つの系統は、筆者の田舎の地域の最も古い系統であり、「折谷」はこの地の先住者と言ってよい局在率を示します。いわば、全国の他所に「折谷」姓の偏在を見出しません。

「竹内」、「長井」はこの地にどこから(毛の国からと想定)到来したものであると述べてきました。到来時期は、ここでは一応、古墳時代としておきます。

現在は、三系統で「笹川」という集落を形成していますが、谷あいの地にこのような偏在地を形成したことは特筆すべきことと思われる。この点は後にさらに詳しく考察することになります。

④水野、安達、谷口

この三つの系統が一団を成します。いずれも扇状地の山麓に沿って偏在地を形成しています。「谷口」は、小川の峡谷にちょっと入った地域にも偏在地を持ちます。

後日、より詳細な分析を紹介しますが、高い局在率を持つより小規模な系統がいくつも連なって小集落を形成し、小集落が連なってある一帯を形成します。その中で、ここに挙げた系統は、古墳時代以降にかなり早期に当地に到来したのではないかと想定します。もしかすると「駅舎」の設定と深い関係があるかもしれません。そうすると前回で「佐味駅」の想定場所を常福寺古墳辺りと想定した仮説への対案を自ら示す可能性がでてきます。すなわち、前回の「北陸道」想定ルートが山裾で絞りこんだ位置が「水野」、「安達」の偏在地に相当しています。

いずれにせよ、この比較的大きな系統の位置する地域が、朝日町では古くから栄えた地域に相当すると主張したいと思えます。その理由は十分な水源と水田耕作地(まずは、谷内田から山麓地)に恵まれていたからです。

「谷口」の偏在地については、奈良時代の和紙生産と絡んで、さらに話は面白くなります。

⑤藤田、清水

この系統はいずれも富山県に広く万遍なく分布(おそらく偏在地がいくつも分布)していますが、朝日町では図2の地域に偏在しています。これは、いよいよ黒部川扇状地の開墾が開始された荘園開発時期に入植した系統ではないかと考えられます。扇状地でも標高の低い湿地帯ではなく、縄文遺跡の豊富な地域から開墾されていた経緯を反映しているのではないのでしょうか。

この近辺には白山社がありますので、そのこともこれらの系統の富山県内分布とも合致しており、富山県の黒部川以西で平地開墾に実績のあった系統が移住させられたのが起源ではないかと想定します。

朝日町10傑は、例えば、平安時代早期にタイムスリップして上空写真を撮るとしたら、図2に近い集落の分布を形成していた写真が得られるのではないかといいことになります。

そこには、まだ現在の中心地である「泊」地区は全く見えません。海岸線沿いに大きな集落があり、山あいと扇状地の山麓添いに小さな集落が点在しているという姿が想定されます。

ということで、確かに「同姓同名探しと名前ランキング」を活用すると様々なロマンを展開できることが分かりました。皆さんもご自分の田舎に適用してみられると面白いことが分かるかもしれません。